

## 2016 年度研究大会

### 10月29日(土)、30日(日) 京都女子大学で実施

2016年の研究大会は、10月29日(土)・30日(日)に京都女子大学(京都市東山区)にて開催されます。引き続き、JSSEESとの合同大会となり、今回はJSSEESの大会開催校が担当します。通常の研究大会プログラム(共通論題、自由論題)となります。研究大会の情報に関しては、随時、学会ウェブサイトを通じてご案内します。秋の観光シーズンにあたるため、京都市内の宿泊施設が大変混雑します。参加予定の方は、早目の手配をお勧めいたします。

#### 1. 共通論題テーマ：『漂流』する世界に挑むプーチン

2016年度の大会の共通テーマは『漂流』する世界に挑むプーチンである。これはプーチン政権の内外政策を軸にしつつ、ロシアと不安定化する世界との相互関係を考慮して、プーチン体制を広い視野から検討しようとする試みである。

金融主導の欧米の行き詰まり、量的拡大に頼る中国の成長鈍化、これらの変化は油価下落をもたらし、中東、ロシア、中央アジアなどの資源依存の限界を露呈させている。ウクライナ、シリア、ナゴルノカラバフ…の局地的な紛争、難民問題、ブリュッセルにおけるテロ…、現代世界の不安定性を示唆する現象が次々と表出している。世界は先行きが見えず、あたかも漂流しているかのようだ。

このような環境の変化に対して、プーチン政権は、時に受動的な、時に積極的な対外政策を展開している。しかし、その政策の効果や持続性は、国内状況に依存する。ロシアの資金・技術の西欧依存や資源依存の成長の脆弱性が露呈し、その対外行動と国内の政治・経済状況との相互関係が問われている。

まず、共通論題では、現代世界に対するロシアの対応に焦点を当てる。蓮見雄がエネルギー市場の変化や経済制裁が、欧亜の狭間にあるロシアの対外経済政策に与える影響について論じる(以下、敬称略)。次いで、雲和広が、ロシアのマクロ経済動向と人々の生活の現状を明らかにする。最後に、油本真理が、地方や選挙の動向を踏まえてプーチン体制の行方を展望する。これらに、ロシアにおける制度の再構築の視点から溝口修平がコメントを加える。全体のバランスを保つ役割の司会は、金野雄五である。

パネル・ディスカッションでは、ロシアから見た世界に焦点を定めつつ、多面的にユーラシア世界を論じる。黒木英充が中東から、小泉直美がロシア外交から切り込み、次いで資源、イスラム、中国などの諸要因が絡む中央アジアを宇山智彦が論じ、最後に EU でも存在感を増すポーランドの政変を小森田秋夫が読み解く。浜由樹子は司会にとどまらず、討論者として役割を担う。会員諸氏の積極的な発言も加わり、活発な討論が行われるものと期待している。

(2016年度研究大会企画委員長：蓮見雄 立正大学)

## 2. 自由論題報告募集 (6月30日締め切り)、若手会員には旅費等を支給

自由論題報告を希望される会員は、①氏名、②住所、③電話番号、④所属、⑤報告タイトル、⑥報告要旨(約400字)を6月30日(必着)までに学会事務局へ、学会ウェブサイトのお問い合わせフォームまたはメールでお知らせ下さい。なお、応募者多数の場合は、理事会にて人数調整を行う場合があります。

自由論題報告を行う若手会員への旅費等の助成は、5万円を上限として、交通費、宿泊費、懇親会費などが助成の対象となり、飛行機を利用したパック旅行も適用されます。院生はもとより、専任・常勤職を持たない若手会員も対象となります。また、2015年度以前に助成を受けた方も再応募は可能ですが、2016年～2018年度の間の利用は一回のみとなります。多くの若手会員の皆様のご利用をお待ちしております。

# 2015年研究大会 上智大学にて実施

2015年(第44回)の研究大会は、ICCEES幕張大会が開催されたことから、開催日を遅らせるとともに、1日に短縮して上智大学で実施されました。例年通りJSSEESとの合同大会で実施されました。哈爾濱学院顕彰基金からのご支援をいただき、当学会との合同シンポジウムを大会前日の20日夜に行いました。また、21日の大会は例年行っている共通論題は実施せず、JSSEESとの合同シンポジウムと自由論題報告という形で行いました。本研究大会開催にあたっては、大会開催校の上野理事に多大なるご尽力をいただきました。

## 1. 合同シンポジウム

2015年のロシア東欧学会年次大会の合同シンポジウムのテーマは、「世界戦争100年—ロシア・東欧研究の再検討」であった。昨年は夏にICCEESの大会があったため、ロシア・東欧学会、JSSEES、哈爾濱学院顕彰基金との合同大会となった。

それ故ロシア・東欧学会から政治、経済、JSSEESから文化というジョイントにより「世界戦争100年」が検討されることになった。そもそも「世界戦争100年」は、第1次世界大戦勃発100年、戦後70年、冷戦終焉後25年という転換期を踏まえ、20世紀の激動100年の動きをロシア・東欧研究から再検討しようとするものであった。

最初に伊東孝之氏が「世界戦争100年と東欧」と題し、東欧では戦争や独裁体制の過程で、シヴィックな忠誠心からエスニックな忠誠心への転換があり、民族と階級敵によるテロと抹殺があったことを明らかにした。次に溝端佐登史氏が「世界経済の変動とソ連・ロシア経済」と題し、資本主義の経済格差の不均衡の200年に対して、ソ連社会主義体制と戦争の100年は、格差是正という「異常値」を生み出した、しかし冷戦の終焉の結果、再び経済不均衡という新自由主義的「正常値」に戻りつつあるという分析を、豊富なエビデンスにより明らかにした。最後にミハイロヴァ・ユリア氏が「現代のロシア研究者による1916年の日露協約の研究」と題し、1907年から16年に締結された日露協約を通し、日露の穏健的友好関係という相互イメージの観点から日露関係を分析した。

各論点をめぐり、多くの質問が活発に出された。世界戦争100年という激動の時代が、政治、経済、文化史を通して多角的に論じられた、充実したシンポジウムであった。

(司会：羽場久美子 青山学院大学)

## 2. 自由論題報告

### (1) 分科会 1

午前中の第 1 分科会では歴史・文学・言語に関わる 3 報告があった。第 1 報告は、東京大学大学院の林由貴会員がロシアの亡命教育学者ニコラス・ハンスについて行った。ハンスのライフ・ヒストリーをアーカイブ資料などを利用してしながら、再構築し、彼の思想（独自のコスモポリタニズム、ユーラシア主義に対する距離など）を説明しようとする意欲的な試みであった。第 2 報告では 大阪大学大学院の杉山真央会員が、ハルビンのユダヤ人カスペの誘拐・殺害事件の報道のあり方を分析した報告を行った。邦字紙、露字紙の三紙を資料とし、コンコードダンス化、テキスト・マイニングなどの新しい手法を応用し、報道の背後に潜む政治的・社会的意味を実証的に検討しようというものであった。第 3 報告は木村崇 京都大学名誉教授が、江戸文芸の表現上の約束事がいかに明治のロシア文学翻訳者たちをしばり、また、いかにそこからの脱出が図られたかを、プーシキンの『大尉の娘』を訳した高須治助の『花心蝶思録』と二葉亭の『あひゞき』などを比較しつつ論じた。討論者として松里公孝 東京大学教授、生田美智子 大阪大学名誉教授、浅岡宣彦 大阪市立大学名誉教授が詳しいコメントと質問を行い、またフロアーからも多数の意見が出て、活発なセッションとなった。

(座長：ヨコタ村上孝之 大阪大学)

### (2) 分科会 2

分科会 2 では政治・社会・安全保障に関する 3 つの報告が行われ、討論者の討論とフロアーからの質問等が活発にかわされた。

第 1 報告のミルチャ・アントン（大阪市立大学大学院）「初期のソビエト家族政策—『自由恋愛論』をめぐる—」は、ロシア革命後のソビエト社会（1917-1922 年）でのコロントイの「自由恋愛論」の特徴を整理し、それが家族政策に及ぼした影響が大きく、コロントイの多くの思想が家族政策として実現されたことを評価すべきだとした。討論者の袴田茂樹氏はコロントイの自由恋愛論が日本の青年の新しい恋愛観の形成に強い影響を与えたことを具体的に補足し、当時の理念・思想と現実の経済的な要請との関係、ソビエト初期のコミュニン主義的な家族制度とそれとは反対の今日のロシアの家族制度の評価についてより詳しい検討を要請した。

第 2 報告の藤井陽一（元西南学院大学大学院）「ロシア国家生命倫理委員会（PHKB）発足（1992 年）までの経緯」は、後にゴルバチョフ書記長の補佐官となった哲学者イワン・フロロフが遺伝子工学の進歩を利用した新優生学の進展の危険性を認識する過程、ソ連の学術界で生命倫理学が広く認知され、1992 年に「ロシア国家生命倫理委員会」が設置されるまでの経緯をフロロフの海外を含む主に学術界での活動を軸に詳細に展開した。討論者の藤本和貴氏は、報告ではフロロフの活動が生命倫理学を軸に語られたが、彼が『哲学の諸問題』誌編集長、『プラウダ』編集長などをつとめていたことから、ペレストロイカの進展との関係、生命倫理学でマルクス主義を基調としたソ連の独自性は何かなどのコメントや疑問を寄せた。

第 3 報告の金森俊樹（大東文化大学）「コソヴォ紛争にみる安全保障観の変遷と正義」は、コソヴォ紛争を「ポスト・冷戦後の時代」の安全保障観の移行期に生じた先駆的な事例として検討している。つまり「内政不干渉」「国家の一体性」という伝統的な国民国家論や国際法がその限界を露呈しており、戦争下の人権保護という立場から「人間の安全保障」という新たな概念が議論されるようになった。それは軍事的な介入を含む「人道的介入」といった非伝統的国際法の諸概念であり、コソヴォ紛争はその「移行期」に生じた地域紛争であると位置づけられる。セルビア側は前者、欧米諸国や NATO は後者の立場であり、まさに「移行期」である。討論者は中津孝司氏をはじめ短時間に多数の発言があり、十分な記録がとれなかったことをお詫びしたい。

(座長：藤本和貴夫 大阪経済法科大学)

## 第6回研究奨励賞 長谷川雄之会員が受賞

第6回目の研究奨励賞が決まりました。まず、学会誌に掲載された40歳未満（投稿時点）の会員による論文のうち、査読評価の高いものなど、会誌編集委員長が候補論文を選定しました。その後、志摩理事（昭和女子大学）を委員長とする5名の理事から成る選考委員による最終選考が厳正に行われ、理事会の承認を経て、長谷川雄之会員（東北大学大学院）の受賞が決定しました。

総会において志摩選考委員長より受賞結果が公表され、上野代表理事より賞状および副賞（5万円）が授与されました。研究奨励賞の導入により、若手研究者による投稿論文の増加、論文の質的向上が期待されています。

### 略歴

長谷川雄之（はせがわ たけゆき）

現職：日本学術振興会特別研究員（政治学・国際関係論）・東北大学大学院文学研究科博士後期課程在籍

学歴：上智大学外国語学部ロシア語学科卒，東北大学大学院文学研究科博士前期課程修了

主な業績：

「現代ロシアにおける国家安全保障政策決定機構—安全保障会議の制度構築に関する一考察」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』第1001号、2016年

「プーチン政権下の現代ロシアにおける政治改革と安全保障会議—規範的文書による実証分析—」『ロシア・東欧研究』第43号、2015年

### 研究奨励賞選考報告

選考委員会において3本の候補論文を慎重に審議した結果、長谷川雄之会員の論文「プーチン政権下の現代ロシアにおける政治改革と安全保障会議—規範的文書による実証分析—」を表彰にふさわしい論文と決定いたしましたので、ご報告いたします。

同会員は、これまでもロシア連邦安全保障会議の権限や機能についての研究を重ねてきており、本論文では、規範的文書の駆使と筆者が作成した安全保障会議委員のバックグラウンドの資料を通して、権力の垂直構造形成過程を示す実証研究であるという点で高く評価されました。また、論文のオリジナリティに関しても、安全保障会議が地方監督機能の強化を通じて、プーチンの指導体制の強化を図っているという欧米の先行研究にもみられない新しい視点が示されています。本論文を土台として、今後取り組むべき研究課題についても審査委員から期待が示されました。本学会の研究対象分野と地域が多様であることから、このような一次資料に支えられた実証研究という研究姿勢は多数の選考委員の支持を得ており、本学会の若手を育成することを目的とした研究奨励賞の論文としてふさわしいと判断いたしました。

研究奨励賞選考委員長 志摩園子

## 長谷川会員による受章の言葉

この度は、名誉あるロシア・東欧学会研究奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。これまで学会等でご指導を頂きました多くの先生方、良質な研究環境を提供して下さいている東北大学東北アジア研究センターの皆様、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。本論文は、連邦法や大統領令といった規範的文書や人事録の分析を基盤としておりますが、これは、私がこれまで政治学と歴史学のゼミ・研究室に所属してきたことが大きく影響していると思われまふ。今後は、その原点を忘れず、多様化するロシア政治研究の手法をさらに吸収し、勉学に励んでまいります。引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 『ロシア・東欧研究』投稿募集中 締め切りは9月15日

論文、研究ノート、書評の原稿を募集しています。**応募締め切りは9月15日、原稿提出期限は11月末日**です。研究大会における自由論題報告者のみならず、多くの会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。また、投稿時点において40歳未満の方は、自動的に若手研究者奨励賞（賞状、副賞5万円）の選考対象となります。執筆要領については、学会HPまたは学会誌巻末の「投稿規程・執筆要領」をご覧ください。

学会誌『ロシア・東欧研究』第44号（2015年版）が刊行されるとともに、第43号（2014年版）が電子ジャーナル化されました。最新号を除いた1972年の創刊号から、日本最大級の総合電子ジャーナル・プラットフォームJ-STAGEにて電子アーカイブ化が完了しております。

学会誌に掲載予定の書評は、学会ウェブサイトにて先行掲示を行うこととなりました。また、書評用の書籍は、事務局ではなく、編集委員会宛に直接ご送付いただきますようお願いいたします。ただし、書評として取り上げかどうかは、編集委員会の判断によります。

問い合わせ・申込み先：ロシア・東欧学会 会誌編集委員会

〒192-0395 八王子市大塚359 帝京大学経済学部 杉浦史和研究室気付

Eメール（勤務先）：fsugiura@main.teikyo-u.ac.jp

## 最近の理事会・総会の議事録より

### 1. 理事選挙当選者会合

日時：2015年11月20日（金）18:00～19:00

場所：上智大学2号館509教室

理事選挙の当選者による会合が開かれ、選挙で一定以上得票された方（上位 50 名）を対象として、専門分野、性別、地域、年代、学会活動などを総合的に考慮して、追加の理事および会計監事が選出された。

## 2. 2015 年度総会 1

日 時：2015 年 11 月 21 日（土）12:10～12:40

場 所：上智大学 11 号館 704 教室

### 1. 予算・決算の承認

- (1) 2014 年度決算に関し、兵頭事務局長（防衛研究所）より、当初予算に比べて支出減になったことが報告され、了承された。
- (2) 2014 年度会計監事から、2014 年度の会計業務および財産状況を厳正に監査した結果、いずれも問題ないことが書面により報告された。
- (3) 2015 年度予算案が承認された。

### 2. 会誌編集委員会

角田編集委員長（防衛大学校）より、学会誌『ロシア・東欧研究』の編集状況が報告された。

### 3. 新理事（任期：2015 年 11 月から 2018 年 10 月）の承認

吉井選挙管理委員長（神戸大学）より、理事選挙および当選者会合において選出された新理事が紹介され、新理事が承認された。

#### (1) 理事選挙において当選した理事（敬称略、五十音順）

五十嵐徳子(天理大学)、上垣彰(西南学院大学)、上野俊彦(上智大学)、宇山智彦(北海道大学)、大串敦(慶應義塾大学)、小森田秋夫(神奈川大学)、下斗米伸夫(法政大学)、田畑伸一郎(北海道大学)、角田安正(防衛大学校)、沼野充義(東京大学)、袴田茂樹(新潟県立大学)、羽場久美子(青山学院大学)、林忠行(京都女子大学)、兵頭慎治(防衛研究所)、廣瀬陽子(慶應義塾大学)、溝端佐登史(京都大学)、ヨコタ村上孝之(大阪大学)、横手慎二(慶應義塾大学)、吉井昌彦(神戸大学)

#### (2) 当選者会合により選出された理事（敬称略、五十音順）

家本博一(名古屋学院大学)、池田嘉郎(東京大学)、岩崎一郎(一橋大学)、雲和広(一橋大学)、柴宜弘(城西国際大学)、志摩園子(昭和女子大学)、杉浦史和(帝京大学)、月村太郎(同志社大学)、徳永昌弘(関西大学)、富山栄子(事業創造大学院大学)、中村唯史(京都大学)、蓮見雄(立正大学)、服部倫卓(ロシア NIS 貿易会)、浜由樹子(津田塾大学)、堀江典生(富山大学)、藤原克美(大阪大学)、三谷恵子(東京大学)、道上真有(新潟大学)、六鹿茂夫(静岡県立大学)、村田真一(上智大学)、望月哲男(北海道大学)

#### (3) 当選者会合により選出された会計監事（敬称略、五十音順）

伊東孝之(元早稲田大学)、藤本和貴夫(大阪経済法科大学)

## 3. 2015 年度第 2 回理事会

日 時：2015 年 11 月 21 日（土）12:40～14:00

場 所：上智大学 11 号館 719 教室

### 1. 会誌編集委員会報告（角田編集委員長、防衛大学校）

学会誌の編集状況が報告された。

### 2. 事務局報告（兵頭事務局長、防衛研究所）

- (1) ニュースレター（第 31 号）の発行が報告された。
- (2) 入会希望者（2 名）、退会希望者（4 名）が承認された。

### 3. 研究奨励賞

志摩選考委員長（昭和女子大学）より、選考委員会の審査結果が報告され、承認された。

### 4. 2016年研究大会

4 学会合同大会が実施されない場合は、JSSEES 側が西日本にて大会開催校を選出することとなり、その場合には10月29日（土）・30日（日）に京都女子大学（担当林忠行理事）で開催し、従来通りのプログラム（共通論題、自由論題、JSSEES シンポジウム）で実施することが承認された。

### 5. 新執行部の選任

新理事による互選により、溝端佐登史代表理事、兵頭慎治副代表理事、五十嵐徳子事務局長が選任された。

### 6. 役員を選任

JCREES 学会担当に溝端佐登史代表理事が、日本学術会議学会代表及び地域連絡協議会（JACASA）学会代表に羽場久美子理事が選任された。会誌編集委員長を含む、その他の委員・役員については、次期理事会にて選任されることとなった。

## 4. 2015年度総会2

日 時：2015年11月21日（土）16:35～16:45

場 所：上智大学11号館704教室

### 1. 2016年の研究大会

4 学会合同大会が実施されない場合は、JSSEES 側が西日本にて大会開催校を選出することとなり、その場合10月29日（土）・30日（日）に京都女子大学で実施する旨報告された。

### 2. 新執行部の承認

溝端佐登史代表理事、兵頭慎治副代表理事、五十嵐徳子事務局長の就任が承認された。

### 3. 研究奨励賞

志摩選考委員長より、選考委員会の審査結果として、長谷川雄之会員（東北大学大学院）に研究奨励賞を授与することが報告された。上野代表理事より、長谷川会員に賞状および副賞（5万円）が授与された。

## 5. 2015年度第3回理事会

日 時：2016年2月28日（日）14:00～16:00

場 所：京都大学経済研究所本館会議室

出席者（敬称略）：五十嵐徳子、上野俊彦、宇山智彦、雲和広、下斗米伸夫、杉浦史和、田畑伸一郎、角田安正、富山栄子、中村唯史、袴田茂樹、蓮見雄、浜由樹子、林忠行、兵頭慎治、藤原克美、溝端佐登史、三谷恵子、ヨコタ村上孝之、吉井昌彦

### 1. 各種担当・委員の選任（任期2015年10月～2018年10月）

- (1) 日本ロシア・東欧研究連絡協議会（JCREES）の担当として、溝端佐登史代表理事の選任が承認された。
- (2) 日本学術会議および地域研究学会連絡協議会（JCASA）の担当として、羽場久美子理事（青山学院大学）の留任が承認された。
- (3) 国際交流委員、広報委員は今後の活動方針が定まっていないために今回は選出せず、活動方針が確定したのち選出ということで承認された。
- (4) ホームページ担当として、兵頭慎治副代表理事の選任が承認された。
- (5) 事務局のサポート体制強化のため、藤原克美理事、および林裕明会員、伏田寛範会員を事務局に配置することが承認された。

2. 会誌編集委員会報告（角田編集委員長、防衛大学校）

(1) 新しい編集委員として、杉浦史和理事（帝京大学、委員長）、角田安正理事（防衛大学校、副委員長）、吉井昌彦理事（神戸大学）、大串敦理事（慶應義塾大学）、中村唯史会員（京都大学）、前田弘毅会員（首都大学東京）、黛秋津会員（東京大学）、松本かおり会員（神戸国際大学）、黒岩幸子会員（岩手県立大学）が選任された。

(2) 会誌第 44 号(2015 年版)の編集状況が報告された。

(3) 研究奨励賞の候補論文が了承された。

(4) 研究奨励賞の選考委員として、上野俊彦理事（上智大学）、林忠行理事（京都女子大学）、田畑伸一郎理事（北海道大学）、蓮見雄理事（立正大学）、ヨコタ村上孝之理事（大阪大学）が選任された。

注：その後、上野理事より委員辞退の申し出があったため、袴田茂樹理事が委員として選任される（3月9日に理事会のメール審議により承認）。

3. 事務局報告（五十嵐事務局長、天理大学）

(1) 年会費の督促について報告された。

(2) 2015 年度中間決算について報告された。

(3) 若手研究者奨励基金を継続することが承認された。

(4) 会員名簿の発行について報告された。

(5) 退会者が承認された。

(6) 入会者 2 名が承認された。

4. 2015 年度研究大会の会計報告が上野理事より行われた。

5. 2016 年研究大会について開催校の林理事から報告された。

(1) JCREES 報告

2016 年は、4 年度に 1 度の 4 学会合同の年であるが、2015 年度に ICEESS 世界大会も幕張で開催されたため、4 学会合同大会は実施しないとの報告があった。

(2) 準備状況について説明があった。秋の観光シーズンにあたるため、宿泊施設予約を、早目に手配することをウェブ等で周知することが確認された。

(3) 共通論題テーマの形式は例年通り研究報告とパネル・ディスカッションということが承認された。

(4) 共通論題のテーマとして「ロシア・東欧をめぐるパワー・トラジクション」（仮題）が承認され、企画委員として、雲和広理事、蓮見雄理事、林忠行理事、宇山智彦理事、上野俊彦理事が選任された。

6. その他

JSEESS との統合については、溝端代表理事、林理事から説明があり、継続協議することを確認した。

**新入会員(敬称略、申し込み順)**

氏名	所属	専門分野	推薦者（署名順）	
服部隆一	貿易研修センター	ロシア・ビジネス	上野俊彦	下斗米伸夫
岡野直	朝日新聞オピニオン編集部	ロシア・ウクライナのメディア	上野俊彦	兵頭慎治
ムヒナ ヴァルヴァラ	上智大学助教	ロシアの移民受け入れ問題	上野俊彦	村田真一
茂野正史	外務省在クロアチア共和国 日本大使館一等書記官	国民経済計算	溝端佐登史	五十嵐徳子

## 2014 年度予算・決算、2015 年度予算案

収入の部			
	2014 年度予算	2014 年度決算	2015 年度予算案
前年度繰越金	8,956,214	8,956,214	9,515,860
会費 (注1)	一般	1,945,000	1,980,000
	退職・院生・非専任	488,000	500,000
	法人	80,000	80,000
雑収入(学会誌広告料、利子など)	80,000	154,248	80,000
<b>当年度の収入合計</b>	<b>2,840,000</b>	<b>2,687,248</b>	<b>2,640,000</b>
<b>収入総計</b>	<b>11,796,214</b>	<b>11,643,462</b>	<b>12,155,860</b>
支出の部			
	2014 年度予算	2014 年度決算	2015 年度予算案
若手研究者奨励基金(注2)		184,049	
研究大会開催費	350,000	339,107	400,000
会誌発行費	800,000	935,280	1,000,000
広報費(ニューズレター、HP 管理費)	100,000	112,545	100,000
事業費(JCREES 等の分担金)	40,000	30,000	40,000
事務局費	200,000	100,976	100,000
会議補助費(理事会等の交通費)	800,000	244,720	650,000
送料・通信費	100,000	100,227	100,000
口座振替料金・振込手数料	50,000	33,748	50,000
予備費(理事会会場借上費用)	400,000	46,950	200,000
<b>当年度の支出合計</b>	<b>2,840,000</b>	<b>2,127,602</b>	<b>2,640,000</b>
<b>次年度への繰越金</b>	<b>8,956,214</b>	<b>9,515,860</b>	<b>9,515,860</b>
<b>支出総計</b>	<b>11,796,214</b>	<b>11,643,462</b>	<b>12,155,860</b>

(注1) 2014 年度から、会員種別を変更。

(注2) 若手研究者奨励基金は 2010 年度より予算から別立て。

# 地域研究学会連絡協議会(JCASA)ニューズレターより

## ロシア・東欧学会 2015 年活動報告

### 1. 2015 年度研究大会

2015 年度（第 44 回）の研究大会は、ICCEES 幕張大会が開催されたことから、開催日を遅らせ 1 日に短縮して 11 月 21 日に上智大学にて、例年通り JSSEES との合同大会で実施された。また、本年度の研究大会は、哈爾濱学院顕彰基金からのご支援をいただき、当学会との合同シンポジウムを大会前日の 20 日夜に行った。哈爾濱学院は、1920 年に日露協会によって哈爾濱に設置された日露協会学校を前身とし、1932 年に哈爾濱学院と改称、1940 年に満州国立哈爾濱学院となり、1945 年に廃止されたロシア語専門学校であり、有為な人材を数多く輩出した。哈爾濱学院顕彰基金とは、1990 年に哈爾濱学院同窓会が、上智大学におけるロシア語およびロシア研究の発展のため寄付を募り、上智大学に設置したものである。

21 日の大会は例年行っている共通論題は実施せず、JSSEES との合同シンポジウムと自由論題報告という形で行った。午前中に 2 つの分科会から構成された 6 件の自由論題報告が行われた。ロシア・東欧学会受付分 4 件、JSSEES 受付分 2 件で、発表内容は歴史、文化、言語、政治、社会、安全保障と多岐に渡り、報告者は大学院生が 4 人と若手の活躍が目立った。また、合同シンポジウム「世界戦争 100 年—ロシア・東欧研究の再検討」と題して、羽場久美子会員（青山学院大学）の司会の下、伊東孝之会員（元早稲田大学）、溝端佐登史会員（京都大学）及びミハイロヴァ JSSEES 会員（広島市立大学）の 3 名が登壇し、活発な議論が交わされた。

### 2. ICCEES（国際中・東欧学会）世界大会

2015 年 8 月 3～8 日に「第 9 回国際中欧・東欧研究協議会（ICCEES）幕張世界大会」が開催され盛況のうち終わった。本会員も多数参加し、本学会では、ICCEES 幕張大会への支援として、若手会員への助成や大会に参加するボランティアの宿泊費助成を行った。

### 3. 新体制の発足

総会において、新しい理事及び会計監事が承認された。当学会では、半数の理事を選挙で選出し、選得票を得た会員を対象として、専門分野や年代、性別、地域などを総合的に考慮して、選挙の当選者が残り半数の理事を選考する方法を採用している。今回、理事が入れ替わることで世代交代が進み、また女性理事の割合も若干であるが増加した。学会運営に新風が吹き込むことが期待される。また、11 月 21 日に実施された新しい理事会にて、溝端佐登史代表理事（京都大学）、兵頭慎治副代表理事（防衛研究所）、五十嵐徳子事務局長（天理大学）が選任され、総会にて承認された。任期は、2015 年 11 月から 2018 年 11 月までの 3 年間となる。

### 4. JSSEES との合同

ロシア・東欧学会と JSSEES との合同に関する JSSEES 理事会の文書について引き続き、協議を行うことが確認された。

（ロシア・東欧学会事務局長 五十嵐徳子）

※地域研究学会連絡協議会（Japanese Council of Area Studies Associations）は、地域研究の発展に寄与し、相互交流や必要な提言を行うことを目的として設立され、本学会を含む関連する 20 の地域研究学会が加盟しています。詳しくは、同協議会ウェブサイト（<http://www.jcasa.jp/asjcasa/index-j.html>）をご参照ください。

# 事務局からのお知らせ

## 1. 2016年度年会費納入のお願い

2016年度年会費のご案内を送付させていただきました。お早目の納入をお願い申し上げます。同封しました払込取扱票を使用して郵便局でお支払いの場合、払込手数料は学会負担となります。受領証は、払込を証明するものですので、大切に保管してください。海外を含む、ゆうちょ銀行以外からご送金いただく場合は、口座番号が異なり、手数料が必要となります。前年度までの年会費が未納の方は、恐れ入りますが、合わせてお支払い下さい。年会費納入に関して、何かご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

## 2. 会員名簿の作成について

7月末時点の登録情報に基づき、本年秋に会員名簿を発行します。住所、電話番号、メール・アドレス、所属、会員種別などの変更、名簿への非掲載項目（郵便番号、住所、電話番号、メール・アドレス）の追加などがございましたら、払込取扱票の通信欄またはメール、学会ウェブサイトのお問い合わせフォームなどで事務局までお知らせください。

### 《編集後記》

学会事務局長に就任いたしました。至らないことが多く、会員の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思えます。業務に専念してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（五十嵐）

**ロシア・東欧学会ニュースレター 第32号（2016年5月発行）**

**《発行》ロシア・東欧学会事務局 事務局長 五十嵐徳子**

**事務局内ニュースレター担当 伏田寛範**

郵便物送付先：〒632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050 天理大学国際学部  
五十嵐徳子研究室気付

E-mail : jarees\_office@yahoo.co.jp HP : <http://www.gakkai.ac/roto/>

ゆうちょ銀行（加入者名：ロシア・東欧学会）:

郵便局での払込：00150-8-177731 他行からの送金：019 店 当座預金 0177731